2章　総合問題2

問題

【1】

ポイント

人間が持つ想像力と知覚にはどのような関係があるのか，知覚がどのようにして作られるのか，人間が同じような知覚を得るのはどうしてなのか，段落ごとに要点をつかみながら，論理の展開を追っていこう。

解答

（1）ⓑ **b**　ⓓ **a**　ⓔ **a**　（2）① microscope　② abstract

（3）「**全訳**」の下線部ⓐ，ⓒ，ⓗを参照。

（4）光線，音波，分子，振動などから，感覚器を経由して知覚が作られるという創造的な脳の処理過程。(45 字)

（5）食べ物はおいしい，ほえているトラは怖い，しかめっ面より笑顔の方が魅力的，苦痛は嫌，殺人は悪いというように，育つ環境にかかわらず誰もが同じように考えるのは，私たちが生き残るために進化させた，物の見方の１つなのだということ。

解説

（1）ⓑ選択肢の意味は，**a**「ぐるりと向きを変えられた」，**b**「詳しく調べられた」，**c**「うまく利用された」，**d**「十分に拡大された」である。主節が「その（＝人間の想像力の）限界が明白になる」の意なので，どうされると明白になるのかを考えると，**b**　examined carefully が適当。scrutinize は「～を綿密に調べる」の意で，ここでは human imagination を主語とした 受動態の過去分詞の形で用いられている。

ⓓ選択肢の意味は，**a**「まったく同じ」，**b**「正しく名づけられた」，**c**「明らかに認められた」，**d**「めったに誤ることのない」である。ここでは人の視覚がとてもよく似ているので，事実上その視覚をまったく同一のものとみなせるということなので，**a** の exactly the same が適当。identical は「同一の；まったく同じ」の意で same より堅い語。

下線部を含む文の構造は以下の通り。

People's visual perceptions are usually $\boxed{\text{so}}$ alike $\boxed{\text{that}}$

they（＝ people's visual perceptions）are

〈for most intents and purposes〉identical.

○ so ～ that …：「とても～なので…である」の構文。「…であるほど～である」と‘程度’として訳してもよい。

○ that 節内の for most intents and purposes は副詞句で，they are identical が S ＋ V ＋ C。

ⓔ選択肢の意味は，**a**「（徹底的な）調査；取り調べ」，**b**「集約；統合」，**c**「含蓄；ほのめかし」，**d**「意図；意思」である。下線部の前の「すべての人は青いマグカッ

プを見たと言うだろう」と，これに続く「Close interrogation が１人くらい他の人より若干緑がかった青のマグカップに見えることを明らかにするかもしれない」という文脈から考えて，**a** の investigation が適当。interrogation は「質問；尋問；取調べ」という意味で，ここでは close に修飾されている主語。「細かく〔詳しく〕調べると」の意になる。

（２） ①説明の英文は「極度に小さいものを大きく見せる科学的な器具」の意。つまり，日本語では「顕微鏡」のことである。ℓ. 34 ～ 35 の which would not be an x-ray view, or a view of it as seen by a heat-detecting camera, or a view of it as seen through an electron microscope（それはＸ線での画像でもなく，温度感知のカメラで見る像でもなく，また電子顕微鏡を通して見る像でもないだろう）という箇所に microscope（顕微鏡）とあるので，これが適当。

②説明の英文は「現実にある，見たり触ったりできるものではなく，考えや性質としてのみ存在している」の意。つまり，見たり触れたりできる「具体的」なものではなく，「抽象的な」という意味の語を説明していると考えられる。また，この説明は existing ～ と分詞句になっているので，ここでは名詞ではなく形容詞を答えるのが適当。ℓ. 46 に出てくる abstract（抽象的な）が最も ふさわしい。

（３） ⓐ

〈in our mind's eye〉 we can travel beyond the range of memory,
S V$_1$
defy the laws of nature
V$_2$ and
slip free from the limits of biology
V$_3$

○ we を主語にして助動詞 can の後に動詞が３つ並列している形。
○ mind's eye：直訳では「心の眼」だが，「想像（力）」のように訳すと文脈に合う。
○ beyond ～「～（＝範囲，限界など）を超えて」
○ defy ～ *vt.*「～を無視する〔ものともしない〕」
○ slip from ～「～から抜け出す」
○ free *adv.*「自由に」

ⓒ ｛Try as you might,｝

you will never be able to imagine ["seeing" as a bat "sees," or "hearing" like a whale].
V' O'

○ Try as you might の as は‘動詞の原形＋ as ＋ S ＋助動詞’の形で「どんなに…しても」という意味を表す。

Ex. Try as he might（= however hard he tried), he couldn't open the door.
（どうやっても彼はドアを開けることができなかった。）

○ imagine は他動詞で目的語は動名詞の seeing と hearing。「(～のように) 見ることと聞くことを想像する」ということ。

ⓗ it is actually very unlikely that the mug is giving him a "blue" experience

形式主語　　S'　V'　O'_1　O'_2 ↑

〈comparable to *mine*（= my experience)〉

it is unlikely that …：この it は形式主語で，真主語は that 節。「…はありそうにない」という意味。

that 以下を直訳すると「マグカップが私に与えるのと同様にネコに『青』の経験を与えている」となるが，自然な日本語になるように訳を工夫したい。ここは無生物主語なので，主語を副詞的に訳して，「ネコがマグカップを見て，私と同じような『青』の経験をしている」とネコを主語にして訳すと自然な日本語になる。

○ comparable to〔with〕～「～と同種の〔類似の〕」

（4）「原材料」→「処理」→「完成品」という工場での製品組み立ての比喩を使って，人間の「知覚」ができ上がる過程を説明している。よって，下線部の後半に書かれている a creative brain process（創造的な脳の処理過程）を，比喩を抜いて説明すれば次のようになる。

原材料		処理		最終製品
		a creative brain process = product assembly in a factory		
(at one end)				(at the other end)
light rays, sound waves, molecules and vibrations	⇒	come in via our sensory organs	⇒	thoughts, emotions and sensations = perception

○ raw material「原材料」

○ finished product「最終製品」

○つまり「(原材料である) ～が処理されて（＝感覚器を経由して）(最終製品である) ～（＝知覚）になる」ということである。

（5）下線部ⓖは「こうした共通の考え方は，進化した物の見方の１つなのだ。」の意。第６段落では具体的な物体について誰もが同じように見ることについて述べているが，この段落ではさらに発展して，抽象的な概念について言及している。ℓ. 47 の Despite the fact that human beings grow up in vastly different environments（人間はまったく異なった環境で育つという事実にもかかわらず）の後，all of them agree that …（皆…であることに同意する）といろいろな例を挙げているので，common view「共通の考え方」はその例を指していると考えるのが適当。また，evolved（進化した）であると言えるのは，下線部の後の It is the one that best equips us to survive.（これこそが，私たちに生き残るための素養を最もうまく与えた。）にあるように，「生き残る」という目的においてのことであることがわかるので，このことも説明に加えるとよい。

全訳

人間は想像力があるということで他の動物より１つ上の立場にいる。というのも，想像力のおかげで私たちは今この場所から自由に飛び立つことができるからだ。ナルニア国やブロブディンナグ，中つ国，ディスクワールド，ライラのオックスフォードなどへ想像の旅ができるのは，それが事実上何にも束縛されていない，つまりⓐ私たちの想像の中では記憶の領域を超えて旅ができ，自然の法則をものともせず，生物としての制約からも自由に抜け出せることを示している。

もしそうならば，もし私たちの心が本当に物質の世界から自由にすり抜けることができるのだとしたら，限界をはるかに超えた側面が私たちそれぞれにあるのかもしれない。そのことで，人間が動物の中でも「特別」であるという私たちの主張が正当化されるだろう。

しかしながら，人間の想像力を詳しく調べると，その限界は明白になる。私たちが空想の中で飛び回っていても，それはすでに存在している概念の型，つまり身体的に私たちの体に刷り込まれている，時，空間そして存在といった概念の中へ組み入れられてしまう。これらの概念の型に，私たちはある特定の方法で「現実の」世界と夢で作り上げた世界の両方を見るように強いられている。もし私たちの体（と，特に脳）が正常に作られているならば，少なくとも理論上は，自分が現実に体験できなかったことは決して想像したりはしないのだ。

例えば，私たちは８次元の世界を想像することはできない。数学者が私たちはおそらく８次元に存在すると言えば，私たちもそれを信じるかもしれない。しかし私たちの体は４次元だけしか知らないので，決して私たちが８次元に存在していることを「想像する」ことはできないだろう。私たちはまた，無限や理想的な正義といった真に抽象的な概念も想像できない。なぜなら私たちの表象は感覚に基づくからだ。私たちが想像できる感覚は自分が知っている感覚だけなのだ。ⓒどうやっても，コウモリが「見る」ように「見ること」やクジラのように「聞くこと」を想像することは決してできないだろう。

最初のうちは，想像は，外の世界を知覚すること，すなわち私たちがすべての知的な生き物と共有していると思い込んでいる，今この場で意識するようなものとはまったく異なるもののように思われる。私が空想の世界から自分の好きなものを何でも作ることができると感じる一方で，私の「現実」の知覚には作り変える余地もない。私が自分の前の机に置いてある青いマグカップを見ているのは，そこにカップがあるからだ。そしてそのカップは青く見せる特別な性質を持っている。だから自分のネコもほとんど同じようにカップを見ているのだ，と私は思い込みがちである。

人間の視覚は通常とてもよく似ているので，事実上まったく同一のものとなる。例えば，あるグループの人たちに私の青いマグカップで反射している光線を見せたとして，そのうちの１人が「ゾウがいる！」と叫んだり，一方でまた別の人が「ばかげたことを！ 明らかにニンジンじゃないか。」と反論するなど，とてもありそうにない。おそらくすべての人は青いマグカップを見たと言うだろう。細かく調べれば１人くらい他の人より若干緑がかった青のマグカップに見えることがわかるかもしれないが，その違いは概してそれほど重要ではないだろう。それだけでなく，すべての人が同じ方法で青いマグカップを見るだろう。それはＸ線での画像でもなく，温度感知のカメラで見る像でもなく，また電子顕微鏡を通して見る像でもないだろう。

しかしながら，知覚それ自体，大部分が想像なのだ。「そこに」あるものについて私たちの意見がぴったりと一致するということで，１人ひとりの見ているものは「与えられた」ものではなく，個々に作り上げたものであるという事実をあいまいにしてしまう。知覚は創造的な脳の処理過程の最終結果であり，それは（ある程度）工場での製品組み立てになぞらえられる。一方の端の，光線，音波，分子，振動といった原材料が，私たちの感覚器を経由して，もう一方の端の，思考，感情，感覚といった最終製品となって現れてくる。外の世界が私たち皆に同じように現れている理由は，それを見るのにたった１つの方法しかないからではなく，私たちの脳の組み立てラインがとてもよく似ているので私たちは皆同じやり方で外の世界を製造してしまうからなのだ。

私たち人間の意見が一致するのは，有形の物体に対する知覚だけでなく，社会的な行為についての複雑な問題に至るまで，より抽象的な方法での物の見方にまで及んでいる。人間はまったく異なった環境で育つという事実にもかかわらず，事実上誰もが，食べ物はおいしい，ほえているトラは怖い，しかめっ面より笑顔の方が魅力的，苦痛は嫌，殺人は悪い，といったことに同意を示す。こうした共通の考え方は，進化した物の見方の１つなのだ。これこそが，私たちに生き残るための素養を最もうまく与えたのである。もし私たちが生き残るために必要な物が異なれば，私たちの見方も異なるだろう。

私のネコが私とほとんど同じようにものを見ているという乱暴な仮定をしたとしても，ⓗ実際には，ネコがマグカップを見て，私と同じような「青」の経験をしていることなどとてもありそうにない。なぜならネコの目と脳は私と同じ方法で光線を処理していないからだ。この点では他の多くのことと同様に（例えばベッドの上にいるネズミを面白いものと思う可能性など）ネコと私は現実に対する共通の見方を共有することはない。私たちが異なった見方をするのは見たものから同じものを「作り出す」ことがないからだ。ネコの体の形や機能がネズミをおいしいおもちゃとして見るよう指令を出しているのとまさに同じように，人間の体の仕組みや働きは私たちが今見ているように物を見るよう指令を出しているのだ。

注

ℓ.1 ◇it（= human imagination）allows us to spring〈free of the here and now〉
S　V　O

○ allow O to …「O（=人・物・事）に…させておく〔…するのにまかせる〕」受動態でもよく用いられる。

Ex. His parents don't *allow* him *to* stay out late.（彼の両親は彼が夜遅くまで外出するのを許していない。）（= He is not allowed to stay out late.）

その他，No pets allowed.（ペット持込禁止。）のように標識などでも使われることがある。

○ free of ～「～から免れて」この free は副詞。

○ the here and now「（名詞的に）今この場のこと；目下；現時点」

ℓ.2 ◇excursion *n.*「小旅行」

ℓ.7 ◇claim to …「…するという主張」

ℓ.11 ◇force O to …「Oに…することを強制する〔強いる〕」通例，Oが望んでいないことを強制する時に用いられる。

Ex. The President was *forced to* resign.（大統領は辞職を強いられた。）

ℓ. 21 ◇ perception of the external world ― the sort of here and now awareness（that）we assume we share with all intelligent life：ダッシュ（―）以下 all intelligent life までは，perception of the external world と同格。awareness の後には，the sort of here and now awareness を先行詞とする目的格の関係代名詞が省略されていて，これは share の目的語。

○ external *adj.*「外部の；外的な」

○ share O with ～「～とOを分ける〔分かち合う〕」

ℓ. 23 ◇ Whereas I feel that I can make anything ｛I like｝ of ～, …

○ whereas：接続詞で，「…だが，一方；…であるのに」の意。while より堅い語。

○ make A of B「A（＝物）をB（＝材料）で作る」通例材料が本質的に変化しない場合に用いる。変化する場合は from を用いる。

Ex. Cheese is made *from* milk.（チーズは牛乳で作る。）

ℓ. 24 ◇ non-negotiable *adj.*「交渉の余地がない」

ℓ. 25 ◇ be inclined to …「…したいと思う；…する傾向にある」なお，agree，believe，think などの前に置いて自分の意見などを遠回しに表す時にも用いる。

cf. I'*m inclined to* agree with you.（あなたの意見に賛成したいと思います。）

ℓ. 28 ◇ if S were to …「もしSが…するとしたら」実現性の乏しい仮定を表す。

ℓ. 29 ◇ bounce off ～「～に反射する〔跳ね返る〕」

ℓ. 36 ◇ Our close consensus about what's "out there" obscures the fact

S　V　O ↑

｛that what each of us sees is not "given" but individually constructed｝.

the fact を修飾しているのは同格の that 節で，「…であるという事実」という意味。なお，すべての名詞を同格の that 節で修飾できるのではなく，fact の他に chance，doubt，information，question，suspicion など限られているので注意しよう。ちなみに ℓ. 41 の The reason の後の that は why の代用で「…である理由」の意。not A but B（AでなくB）にも注意。

ℓ. 46 ◇ up to ～「～に至るまで」

◇ sophisticated *adj.*「高度な；複雑な」

ℓ. 47 ◇ conduct *n.*「行為；品行」

ℓ. 52 ◇ casual *adj.*「無頓着な；思いつきの」

ℓ. 57 ◇ Human physiology dictates that we see things　　as we do（= see）

just as

a cat's … function dictates that it（= cat）sees mice as delicious playthings.

人間とネコが対比されていることに注意しよう。

【2】

全訳

ⓐ子供が，事物が何であるかということをただわかっているだけではなく，その特定の外観――色・調子・形・外見・これらとの何らかの関係――をも楽しんで，驚きまたは喜びをもって目を向けることができないのならば，その子供は何かを失っていると，信じる親や教師は，子供の発達に重要な貢献をしたいのならば，思慮深くならなくてはならない。子供に，我々が考えている教養というものを押し付けて，感受性の温室の中で育てても無駄なのだ。ⓑ子供は，当然のことであるが，このような努力を拒み，その結果人為を表するもの全てを拒むことになるか，それとも自分では受け入れられ得ると思っても，本質的には自分のためにまったくならない，表面的にだけ自分が気に入ったものを選ぶかのいずれかになろう。

【3】

解答

（1） ⓒ **d**　ⓓ **b**

（2） ⓐ **c**　ⓑ **b**　ⓔ **d**　ⓖ **a**　ⓗ **c**

（3） 「**全訳**」の下線部ⓕ，ⓘ参照。

（4） 諦めていた視力の回復が可能になるかもしれないと思ったから。(29 字)

解説

（1） ⓒ下線部を含む文の前文にある，これまでキャシーが出会ってきた専門家と対比して，下線部以降「この男は…」と続いているという文脈を押さえよう。第２段落第２文でパーシヴァル博士が登場して以降は，すべてキャシーと博士とのラジオ番組におけるやり取りになっているので，this guy（この男）もパーシヴァル博士を指しているとわかる。

ⓓ give a talk（話をする）は talk を名詞として用いている。選択肢は **a**「対話をする」，**b**「講義〔講話〕をする」，**c** と **d**「雑談をする」という意味だが，パーシヴァル博士は自分の専門についての話をするので雑談には当たらない。**a** か **b** ということになるが，後ろには「新しい治療法について」とあるので，それについて説明するという意味合いになっていることが読み取れる。したがって，**b** がふさわしい。なお，give ～ は「～（＝音や声など）を発する」という意味。

e.g. give a cry（叫ぶ）／ *give* a sigh（ため息をつく）／ *give* a laugh（笑う）

（2） ⓐ deal with ～（～を扱う）という基本表現。キャシーがインタビューで扱う話題や人について述べられている箇所である。

ⓑ空所の前に目的格の関係代名詞 that がある。後半を元の文に戻すと，Kathy found them（＝ things）hard <u>to believe</u>.（キャシーはそのことが信じがたいと思った。）となる。この to believe は hard という形容詞を修飾する副詞用法の不定詞。なお，この文は Kathy found it hard to believe them. と書き換えることもできる。

ⓔ博士がキャシーに，目の治療法についての説明を求められている場面。博士はその後実際に説明をしているので，**d** の Certainly（もちろんです）が正解になる。他の選択肢は **a**「絶対にダメです」，**b**「とんでもない」，**c**「とにかく」という意味。

ⓖ find fault with ～（～の欠点を探す〔あら探しをする〕）という基本表現。キャシーが博士の説明の中に，自信がないことを示す兆候がないかどうか探している場面である。

ⓗこの文はℓ. 34 とℓ. 37 がつながって let me apologize for ～ となっていることに注意する。apologize for ～（～のことで詫びる）の目的語としてふさわしいのは **c** の先行詞を含む関係代名詞 what であり，what the papers reported（新聞が報道したこと）という意味になっている。

（3） ⓕ Kathy was waiting for any little changes in his voice

S　V

{that might suggest {that he was not sure 〈about what he was saying〉}}.

V’　S”　V”　C”　O’

Kathy was waiting for any little changes in his voice までが主節。この部分は，文字通りには「声のちょっとした変化が起きるのを待っていた」という意味になるが，文脈を考えると「声のちょっとした変化も聞き逃がすまいと待ち構えていた」というような訳文にした方がわかりやすくなる。

voice の直後の that は主格の関係代名詞だが，その先行詞は文脈から考えて voice ではなく changes である。ここでの suggest ～ は「～を示唆する」という意味。

○ be sure about ～「～について確信している〔自信を持っている〕」

○ what he was saying「彼が言っていたこと」ここでの what は先行詞を含む関係代名詞。

ⓘ第１文

But Kathy wanted him to be very exact with his answer.

S　V　O

,though she heard no sign of doubt in his voice,

S’　V’　O’

though から voice までは譲歩の副詞節の挿入になっている。sign of doubt の直訳は「疑念の兆候」だが，「自分の言っていることに確信がないという徴候」ということ。with は「～に関して」。

第２文

She knew {(that) her listeners expected no less}.

S　V　S’　V’

expected は第１文の wanted と同様の意味を表すことを意識すると，her listeners expected no less（than she did（= wanted him to be very exact with his answer））という文が省略された形になっているとわかる。no less than … は「…と同様に；…に劣らず」という意味。

（4） 直後にキャシーは「罪の意識を感じた」とあり，その根拠として，たとえ視力を回復できるチャンスが訪れたとしてもそうしないと心に決めていたことが述べられている。それは希望を持っても仕方がないことを悟っていたからであった。ところが，パーシヴァル博士が「自分の目が治る」と自信を持って述べている様子から希望が持てたことで興奮を覚えたのである。これは最後から２番目の段落の第１文，For the first time ～ the hope of sight.（子供の頃以来初めて彼女は，目が見えるようになるという希望を持った。）でも述べられている。

解答に当たっては，下線部以降のキャシーの心的説明部分を 30 字以内にまとめることになるが，「目が見えるようになる可能性ができた」とともに，「今まで諦めていた」という部分も解答に含めたい。

全訳

キャシーのラジオ番組は，そのラジオ局で最も人気のある番組の１つであった。彼女は話題の人物にインタビューしたり，深刻な問題を扱ったりしていた。彼女はお決まりの政治家や実業家ばかりでなく，芸術家，作家，科学者にもよくインタビューをした。視聴者にとって番組がさらに面白くなったのは，キャシーがゲストに質問をした時，特にキャシーには信じられないようなことをゲストが言った時であった。それで本当に番組が盛り上がった。

朝の番組の終わり近くになって，最後のゲストが登場するところであった。彼はアメリカ人科学者のウッドロー・パーシヴァル博士で，眼科手術の専門家であった。キャシーが彼に興味を持ったのは，損傷を受けた視神経を，実際の神経と同程度に，もしかしたらそれよりずっとうまく機能を果たす小さなコンピュータ・チップに取り替えることができると言ったからである。キャシーはこの点に個人的興味を持った。彼は実際，目の不自由な人の目が見えるようにできると言ったのである。

その上，彼は彼女の目も見えるようにできると言った。

キャシーはそれまでにも他の「専門家たち」に出会っていた。彼らは本当のことを言うよりも，注目を集めることに興味を持っていることもあった。もしこの人が自分の手法について本当は疑問を持っているならば，自分にはそれがわかるはずだとキャシーは思った。障害を受け入れてくじけずに生きていたかもしれない人たちに期待を抱かせるのは間違っている。もし彼が人々に偽りの期待を抱かせているのであれば見破れるはずだ。自分はそれを見極めるのにぴったりの人間だと彼女は思った。

彼女はパーシヴァル博士を視聴者に紹介して，インタビューを始めた。

「パーシヴァル博士，今日は後ほど，ご自身の新しい治療法についてお話しいただきます。この治療法がどのように効果をあげるのかを簡単な言葉で説明していただけませんか。」

「もちろんです。」

彼は実にわかりやすく説明した。ⓕ<u>キャシーは，彼が自分の言っていることに自信がないことを表しそうな，わずかな声の変化をも聞き逃がすまいと構えていた</u>。彼の声は落ち着いていた。彼は 40 歳だったが，その声は老いた人のものではなくて，気骨を感じさせるところがあった。彼女は頻繁に質問をして，彼の返事に偽りがあることを示すような徴候を聞き逃がすまいとしていた。だが，何の徴候もなかった。パーシヴァル博士が言ったことはすべて，彼がまったく本当のことを言っているということを表すような言い方であった。彼の返

事はすべて，わかりやすい率直なものであった。キャシーは博士の声や議論の筋道を非の打ちどころのないものと思った。最後に彼女はすべての視聴者が待っているとわかっている質問をした。

「パーシヴァル博士，あなたは目が見えるようになる手段をこの私にご提供いただけるとおっしゃいました。それは非常に個人的な発言でした。本気でそうおっしゃったのですか。」

キャシーは耳を澄ませた。彼はここまでは誠実に話している。もし弱みを見せるのだったら今だわ，と彼女は思った。

「ミス・ページ，申し訳ないのは…」

「やっぱり！彼は揺らいでいるわ！自分ができると言っていることをきちんと裏付けられないことを彼は知っているんだわ。」とキャシーは思った。

「…新聞に書いてあったことなのです。新聞はあなたの名前を特に挙げていたのですが，実際には，私は一例としてあなたの名前を使っただけなのです。私が実際に言ったのは，例えば，あなたの神経が受けたように，神経に損傷を受けた人は，私の治療法で救われるということでした。」

ⓘだがキャシーは，彼の声には確信が揺らいでいることを表す徴候はまったく感じ取れなかったけれども，彼にははっきりと返事をしてもらいたかった。彼女は視聴者も同じように期待していることを知っていた。

「パーシヴァル博士，あなたは私の目が見えるようにできるとおっしゃるのですか。」

「そうですね，もっと詳しくあなたのカルテを見る必要はありますが，大丈夫だと思います。はい，できます。」

番組が終わる時間が来た。キャシーはゲストたちに感謝の言葉を述べて，番組のエンディング・テーマ曲が流れた。彼女は興奮を覚えたが，罪の意識も感じた。彼女は常々，たとえ目が見えるようになるチャンスが与えられたとしても，目が不自由な生涯を過ごしてきた後であっても，そのようなチャンスを利用しないだろうと思っていた。だが，その頃には希望はまったくなかったのだ。希望を持っても無駄であった。希望というものは，閉まっているのにそれを開ける鍵がないドアに似ている。これまではそうだった。

でも今や，この博士は自信があるように思われた。彼女はそれを確信していた。

子供の頃以来初めて彼女は，目が見えるようになるという希望を持った。本当は自分の目が見えるようになりたいと思っていることに気づいた。彼女は美術館の絵，友人たちの顔，夜明け空，夜空の星を見たいと思った。彼女は自分が心からそう願っていることに気づいた。

ウッドロー・パーシヴァル博士は急いで自分の話に向かわなくてはならなかった。彼は，彼女にお礼を述べて，立ち去った。

注

ℓ.1 ◇station *n.*「ラジオ局」

ℓ.2 ◇in the news「話題になる；ニュースになる」

◇as well as ～「～と同様に」

ℓ.7 ◇eye surgery「眼科手術」

ℓ.8 ◇replace A with B「AをBと取り替える」

ℓ.13 ◇get publicity「注目を集める」

ℓ. 14 ◇It was wrong to … ／ If he was offering ～：この２つの文は直前の文と同様キャシーの胸の内を表していることに注意。これを「描出話法」と呼ぶ。
ℓ. 15 ◇otherwise *adv.*「そうでなかったら」
◇disability *n.*「障害」
◇get on with（one's）life「くじけずに生きていく」
ℓ. 16 ◇find ～ out ／ find out ～「～（＝人の悪事）を見破る」
ℓ. 25 ◇at frequent intervals「頻繁に」
ℓ. 28 ◇open *adj.*「率直な」
ℓ. 32 ◇He had been good ～ ／ If he was …：この２文も描出話法である。
◇so far「これまでのところ」
ℓ. 35 ◇This is it.「来るものが来た。；これだ。」
ℓ. 37 ◇name ～ *vt.*「～の名前を挙げる」
ℓ. 43 ◇medical record「カルテ」
◇in more detail「もっと詳しく」
ℓ. 48 ◇there is no point in …ing「…しても無駄である」
ℓ. 55 ◇rush off「急ぐ」

【4】

解答

（1） **c**　（2） **c**　（3） **b**　（4） **a**
（5） **b**　（6） **b**　（7） **d**　（8） **b**

Script

W: Hello?

M: Hello, is that Angelina?

W: Yes.

M: Hi, Angelina. This is Brad.

W: Oh, hi, Brad. Sorry, I didn't recognize your voice. How are you doing?

M: Pretty good. I just called because I was wondering if you'd like to go out to see a movie on Friday evening.

W: Friday? I'm sorry. I've already made plans for Friday.

M: Oh, that's too bad. How about Saturday?

W: Well, I have volleyball practice on Saturday, but I guess I could meet you on Sunday if you're free — or if not, maybe next week some time.

M: Sunday would be great for me.

W: OK. What do you want to see?

M: I was thinking of *The Long Shot*.

15 W: What's it about?

M: It's a movie about a boxer and his struggle to support and protect his family. It's based on the true story of an American boxer who became a champion back in the Depression.

W: Who's in it?

20 M: Russel Starling.

W: Russel Starling? . . . I don't know. I'm not really a big fan.

M: But he's a really good actor. He's won two Academy Awards — one for *The Warrior* and one for *Genius*. They were two entirely different types of movies. He's very flexible. I mean, he's got a lot of range. He's not just a macho tough-guy type. But

25 never mind. What do you suggest?

W: How about *Man and Wife*?

M: Sorry. I've never heard of it.

W: Really? It's already a big hit. It's a story about a married couple who are both assassins. It's sort of a dark romantic comedy.

30 M: Who's in it?

W: It stars Angelina Jewel and Brad Drake.

M: Angelina Jewel and *Brad Drake*? Come on. That guy hasn't got half the talent of Russel . . . uh . . . *Angelina* and *Brad*? . . . Sure! Let's make it a date. What time should I pick you up?

35 W: Let's see. I'm meeting a friend for lunch. Could we meet in front of the New York Public Library at, say, 2:00 P.M.?

M: Sure, that'd be fine. And shall we have dinner after the movie?

W: All right. Where do you want to go?

M: Why don't you let me surprise you? After all, you got to pick the movie.

40 W: You don't want to see that movie? I mean, we could choose another one …

M: No, no, no. That's not what I mean at all. I'm a great fan of Angelina Jewel. I just want to take you somewhere special. I mean, it's not a really famous place, but the food is great and I think you'll enjoy it.

W: OK. Let's do it. I'll see you on Sunday at two, all right?

45 M: Absolutely.

全訳

女：もしもし？
男：もしもし，アンジェリーナ？
女：はい。
男：やあ，アンジェリーナ。ブラッドだよ。
女：ああ，こんにちは，ブラッド。ごめんなさい，あなたの声だとわからなかったわ。元気？
男：とても元気だよ。金曜日の夜に映画を見に行かないかなと思って電話したんだけど。
女：金曜日？ごめんなさい。金曜日はもう予定があるの。
男：ああ，それは残念だね。土曜日はどう？
女：ええと，土曜日にはバレーボールの練習が入ってるんだけど，日曜日はもしあなたが空いてるなら，会えると思うわ。だめなら，来週のいつかに。
男：日曜日なら都合がいいよ。
女：わかった。何を見たいの？
男：『ロング・ショット』がいいと思ってるんだけど。
女：どういう映画なの？
男：家族を路頭に迷わせないようにがんばるボクサーの話だよ。大恐慌時代にチャンピオンになったアメリカ人ボクサーの実話がもとになっているんだ。
女：誰が出ているの？
男：ラッセル・スターリングだよ。
女：ラッセル・スターリング？…どうかなあ。私はあまり好きじゃないわ。
男：でも，彼はとてもいい俳優だよ。アカデミー賞を２回取っているよ。１回は『ザ・ウォーリアー』で，１回は『ジーニアス』で。その２つはまったく違う種類の映画なんだ。彼はとても器用だよ。っていうか，演技の幅が広い。マッチョでタフな男のタイプっていうだけじゃない。でも，気にしなくていいよ。何がおすすめ？
女：『男と妻』はどう？
男：ごめん。聞いたことないよ。
女：ほんと？すでに大ヒットになってるわよ。暗殺者夫婦の話なの。闇世界の恋愛コメ

ディってとこかな。
男：誰が出ているの？
女：アンジェリーナ・ジュエルとブラッド・ドレイクよ。
男：アンジェリーナ・ジュエルとブラッド・ドレイクだって？まさか。あいつはラッセルの才能の半分もないじゃないか…えーっと…アンジェリーナとブラッド？…いいよ！そうしよう。何時に迎えに行けばいい？
女：そうね。友達とお昼を食べるから。午後２時ぐらいにニューヨーク公立図書館の前で会えるかしら？
男：うん，それがいいね。映画の後で夕食を食べようか？
女：いいわよ。どこへ行きたいの？
男：僕に任せてくれない？だって映画は君が選んだんだから。
女：あの映画を見たくないの？別のにしてもいいけど…。
男：いや，いや，いや。そういう意味じゃないよ。僕はアンジェリーナ・ジュエルの大ファンなんだよ。君を特別な場所へ連れていきたいだけだよ。えっと，有名なところっていうわけじゃないけど，料理がおいしいから楽しめると思うよ。
女：わかった。そうしましょう。日曜日の２時に会うっていうことでいいわね？
男：もちろん。

注

ℓ. 5 ◇ recognize「～だとわかる；聞き覚えがある」
ℓ. 6 ◇ I was wondering if …「…かどうかと思いまして」
○物事を頼んだり尋ねたりする時の丁寧な言い方。
ℓ. 8 ◇ I've already made plans「すでに予定を立ててある」
e.g. make plans（for ～）「（～の）計画を立てる」
have plans（for ～）「（～の）計画がある；（デートなどの）約束がある」
ℓ. 9 ◇ That's too bad.「それは残念だね」
ℓ. 10 ◇ I guess …「…と思う」
○ I think よりも口語で使われることが多い。
ℓ. 12 ◇ Sunday would be great for me.「日曜日であれば都合がいいよ。」
○ would は仮定法。
ℓ. 14 ◇ long shot「一か八かの大ばくち」
ℓ. 16 ◇ struggle *n.*「苦闘努力」
◇ support「～の生活を支える；養う」
◇ protect「～を守る」
ℓ. 17 ◇ be based on ～「～に基づいている；～が元になっている」
◇ the Depression「大恐慌」
○ 1929 年にニューヨーク市場の大暴落に端を発した世界不況。= the Great Depression
ℓ. 21 ◇ big fan「大ファン」
ℓ. 22 ◇ Academy Award「アカデミー賞」
◇ warrior「戦士；武人」

ℓ. 23 ◇ genius「天才」
◇ entirely ＝ completely「まったく；完全に」
ℓ. 24 ◇ flexible「柔軟な；融通の利く」
◇ I mean「つまり；いやその」
◇ range「範囲；領域」
◇ macho「男っぽいのを売り物にした」
◇ tough「頑強な；タフな」
ℓ. 25 ◇ suggest「～を提案する；すすめる」
ℓ. 29 ◇ assassin「暗殺者」
◇ sort of ～「まあ～；いわば～」 a sort of とは異なるので注意。
◇ dark「闇の」
ℓ. 31 ◇ star「～を（映画の）主役にする」＝ feature
ℓ. 34 ◇ pick ～ up「～を車で迎えに行く」
ℓ. 35 ◇ Let's see.「ええと，そうですね。」
◇ I'm meeting … このように現在進行形は近い未来の予定を言う時に使う。そういう約束ができているというニュアンスがある。
ℓ. 36 ◇ say「（通例数詞ないし例示するものの前に挿入して）まあ～ぐらい，たとえば」let us say, shall I〔we〕say とも言う。
ℓ. 39 ◇ after all「（前文への証拠・理由・補足・説明を示して）だって～だから」
ℓ. 40 ◇ choose「～を選ぶ」
ℓ. 41 ◇ great fan（ℓ. 21 の big fan とほぼ同じ）
ℓ. 45 ◇ Absolutely.「いいとも；もちろん」

【5】

解答・解説

（1） with〔for〕all ◆628［629］
○ with〔for〕all ～「～にもかかわらず」
○ with は「所有・所持」を表すので，後ろには必ず「所有することのできるもの」がくる。

（2） Compared with〔to〕 ◆631
○（as）compared with〔to〕～「～と比較すると」（= in comparison with ◆630）

（3） According to ◆634
○ according to ～「～によれば」

（4） In addition to ◆635
○ in addition to ～「～に加えて」

（5） instead of ◆638
○ instead of …「…しないで」

（6） at，cost〔sacrifice；expense；price〕 ◆639
○ at the cost〔sacrifice；expense；price〕of ～「～を犠牲にして」

cf. at all costs〔at any cost〔price〕〕（是非とも；どんな犠牲を払っても） ◆640

（7） run〔take〕; risk ◆645

○ run〔take〕the risk of …ing「…する危険を冒す」

cf. at the risk of ～〔at risk to ～〕（命などをかけて；～の危険を冒して） ◆644

（8） once, while ◆646

○ once in a while「時々」（= at times ◆650, at while；sometimes；on occasion(s) ◆648, occasionally；(every) now and then ◆649, from time to time）

（9） in time ◆653

○ in time「間に合って」

(10) on time ◆654

○ on time「時間どおりに」

(11) in advance ◆657

○ in advance「前金で」

(12) All, once ◆662

○ all at once「突然」（= suddenly；all of a sudden ◆663）

(13) no ◆665

○ in no time「すぐに；間もなく」

○「今からゼロの時間の後に」→「すぐに」

(14) time being ◆668

○ for the time being「当分の間；さしあたり」

(15) above all ◆671

○ above all (things)「とりわけ；何よりもまず」

(16) length ◆676

○ at length ①「詳細に；十分に」②「長い間」（= for a long time）③「ついに」（= at last）

(17) long run ◆678

○ in the long run「長い目で見れば」

(18) next to〔all but〕 ◆680

○ next to ～「(否定的な意味の語とともに用いて) ほとんど」

(19) something ◆681

○ something of a〔an〕～「ちょっとした；かなりの」

(20) To, best ◆686

○ to the best of *one*'s ～「～の及ぶ限りでは」